

准フォレスター連携会議

〔技術普及課、岐阜署、森林技術・支援センター〕11月6日～7日にかけて岐阜県下呂市で准フォレスター連携会議を開催しました。この会議は、准フォレスター研修修了生等が一堂に会し、森林施業プランナーとの意見交換やコンテナ苗植栽などの知見を深めることを通じ今後の活動に生かすことを目的に開催したものです。会議には、中部ブロック准フォレスター研修を受講した者など8県の民有林関係者16名、中部森林管理局職員25名が参加しました。

1日目の全体会議では、フォレスターとして活動を進めて行く際、森林施業プランナーとの連携が重要であることから、岐阜県西南濃森林組合の高木啓晶業務係長と公益社団法人岐阜県森林公社の坂本仁技術主査の2名にプランナーとしての活動報告や参加者から事前に聞き取った質問事項などについて回答していただく形で意見交換を行いました。

フォレスターに望むこととしては地域の調整役になっていただきたい、地域のプランナーとの座談会を開くなど意見交換の場を作ってみてはどうかと言った提案をいただきました。その後、(独)森林総合研究所林木育種センターの藤原優理原種係長から「林業用種苗の生産と配布」と題し林業用種苗生産の現状や林業用種苗に関する制度等について講義をしていただき、エリートツリーの開発見通しなど育種体系の基礎を学ぶことができ大変有益なものとなりました。

2日目は、岐阜森林管理署管内高天良国有林において、井上森林技術・支援センター所長らによるヒノキコンテナ苗や専用植栽器具などの説明の後、コンテナ苗約3百本を、いろいろな専用器具で試しながら植栽を行いました。今後コンテナ苗を推進していく上で実際に植栽体験ができたことは有意義であり、器具の違いで植栽工程が違うことや注意点が理解できたとの声がありました。

その後、七宗国有林においてニホンジカ被害対策として設置した囲いワナについて岐阜森林管理署の影山総括地域林政調整官から、また、くくり罠について七宗町猟友会長谷部副会長から設置の際の注意点等を聞き、シカ対策が待ったなしの状況であることを認識した、他地域での取組み事例は新たな知見が得られ参考になったといった意見がありました。

2日間を通じ参加した者の情報交換、技術・知識の共有の良い機会となり、次回開催を望む声もあることから、各県職員、国有林職員双方の弱点を補完できるようなメニューなどを検討し、フォローアップ、連携の取組を進めて行く予定です。



コンテナ苗植栽現場での集合写真